



“見上げるもの”

昔から、学校には見上げるものが3つあると言われています。その一つは、校舎（まなびや）です。学校の高い所には、校章があって、子どもたちを見守っています。そして二つめは、先生（師）です。子どもの成長を願い、教え、ともに歩もうとする姿があります。そして、三つめは、最上級生である6年生です。もちろん今の1年生も、いずれは6年生になります。ですから、全校児童が、時期こそ異なれ、いずれ見上げられる存在となります。

ご家庭で言えば、親や祖父母、そして先祖が見上げられる存在になるでしょう。

「見上げるもの」そこには、「学び」「教え」が行き交います。

6年生が、なぜ、見上げる存在なのか？学校は、6年生が手本となり、見上げる存在でなくてはなりません。行事では、6年生の係り仕事への取り組み方が、手本になっているのです。1年生から5年生の子どもたちは、6年生の動きを見て学ぶのです。そして、6年生のあいさつは、学校の代表です。そして優しい言葉かけも。みんなで6年生に期待しましょう。

しかし、6年生になれば自然と、見上げられるような力が生まれるものではありません。見上げられる力は、卒業していった先輩から伝えられたものですし、先生方や家庭・地域での様々な経験の中で学んだものです。中には、野球やバレー、サッカーといったチームに所属し、その中で育まれたものもあるでしょう。多くの方々との関わりを通して得たものが実って、今の最上級生という存在があるのです。

桜台小学校では、6年生をリーダーとした学校生活を充実させ、児童一人一人の学ぶ意欲を高めると共に、豊かな心を育み、生涯にわたって自己実現を図ることのできる力を、すべての子どもたちに身につけさせていきたいと思えます。



6年生による平和学習が始まりました

5月8日に、6年生による平和集会が開催されました。6年生が、修学旅行という行事を通して取り組んでいる平和学習について、1年生から5年生に、その思いを伝えてくれました。

内容は、“うみの しほ”さんの「折りづるの旅」という絵本を6年生全員で群読しました。「平和」という言葉を理解することが、難しかった学年もありましたが、みんなしっかりと聞いていました。6年生は、広島市の平和公園にある「原爆の子の像」が、原爆によって理不尽にもその若い命を奪われた禎子の悲しみ、無念の想いを知った中学生の力で建てられたことを知りました。自分たちの力で、平和への願いを伝えようとしてくれた6年生でした。

特別支援教育を進めています

桜台小学校では、特別支援教育を大切にしています。「一人一人を大切に」という考えが、特別支援教育には貫かれております。一人一人の教育的ニーズに応じて適切な指導及び支援を行うことによって、生活や学習をしていく上で、そのもてる力を高めていきたいと思いますという考えです。

こうした考えのもと設置されているのが、特別支援学級（本校ではプレイ室と呼びます）や、通級指導教室（サポート教室と呼びます）です。これからの社会や学校は、すべての子ども同士が日常的に、ふれあい、共感しあう環境づくりの推進と、そして一人一人が輝くために、一人一人の教育的ニーズに応じた支援が求められています。こうした学級を学校全体で支えていきたいと思えます。

桜台小学校では、この支援教育の視点を、プレイ室や通級教室だけのものと考えていません。それは、どの子ども「勉強がわかるようになりたい」「友だちと仲良くしたい」「元気に学校に通いたい」などの願いを持っているからです。その願いを達成するためには、学級経営や授業づくりに、特別支援教育の視点が必要なのです。（この考えはユニバーサルデザインとよばれ、現代の教育のキーワードの一つと言われています。）

保護者・地域の皆様のあたたかいご理解とご支援・ご協力をどうかよろしくお願いいたします。